

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】 第 3 部門第 3 区分

【発行日】 平成 19 年 6 月 28 日 (2007.6.28)

【公表番号】 特表 2002-543252 (P2002-543252A)

【公表日】 平成 14 年 12 月 17 日 (2002.12.17)

【出願番号】 特願 2000-615669 (P2000-615669)

【国際特許分類】

C 0 8 L 23/00 (2006.01)

B 2 9 B 7/42 (2006.01)

B 3 2 B 1/08 (2006.01)

B 3 2 B 15/085 (2006.01)

B 3 2 B 27/32 (2006.01)

C 0 8 K 3/00 (2006.01)

C 0 8 K 5/13 (2006.01)

C 0 8 L 23/26 (2006.01)

C 0 8 L 51/06 (2006.01)

C 0 8 L 63/00 (2006.01)

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 9 D 123/26 (2006.01)

C 0 9 J 123/26 (2006.01)

B 2 9 K 23/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 23/00

B 2 9 B 7/42

B 3 2 B 1/08 Z

B 3 2 B 15/08 1 0 3 Z

B 3 2 B 27/32 1 0 1

C 0 8 K 3/00

C 0 8 K 5/13

C 0 8 L 23/26

C 0 8 L 51/06

C 0 8 L 63/00 A

C 0 8 L 101/00

C 0 9 D 123/26

C 0 9 J 123/26

B 2 9 K 23:00

【手続補正書】

【提出日】 平成 19 年 4 月 25 日 (2007.4.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 特許請求の範囲

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 カルボン酸、そのエステル、無水物及び金属塩より選ばれた官能基化剤の少なくとも 1 種で官能基化されたオレフィンポリマーの 1 種以上及び安定剤の少なくとも 1 種が 1,3,5-トリメチル-2,4,6-トリス(3,5-ジ-*t*-ブチル-4-ヒドロキシベンジル)ベンゼンである、1 つ以上の立体障害フェノール基と多くても 1 つのエステル官能基を含んでいる

安定剤の1種以上を含む事の特徴とする組成物。

【請求項2】 該安定剤の量が0.001～1質量%である、請求項1記載の組成物。

【請求項3】 カルボン酸、そのエステル、無水物及び金属塩より選ばれた官能基化剤の少なくとも1種で官能基化された該オレフィンポリマーの少なくとも1種がマレイン酸無水物で官能基化されたエチレンポリマーである、請求項1又は2記載の組成物。

【請求項4】 該マレイン酸無水物が0.001～5質量%の量で官能基化された該エチレンポリマー内に存在する、請求項3記載の組成物。

【請求項5】 該マレイン酸無水物で官能基化された該エチレンポリマーが915～960 kg/m³の標準密度及び、190℃において5 kgの荷重下で測定した0.1～50 dg/minのメルトフローインデックスを示す、請求項3又は4記載の組成物。

【請求項6】 1種以上の非官能基化オレフィンポリマーで希釈されている、請求項1～5のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項7】 カルボン酸、そのエステル、無水物及び金属塩より選ばれた官能基化剤の少なくとも1種で官能基化されたオレフィンポリマーの安定化において、安定剤の少なくとも1種が1,3,5-トリメチル-2,4,6-トリス(3,5-ジ-t-ブチル-4-ヒドロキシベンジル)ベンゼンである、1つ以上の立体障害フェノール基と多くても1つのエステル官能基を含んでいる安定剤の1種以上の使用。

【請求項8】 官能基化オレフィンポリマーの1種以上及び安定剤の1種以上を含む安定化組成物の調製方法であって、オレフィンポリマーの1種以上、官能基化剤の1種以上、ラジカル開始剤の1種以上、安定剤の少なくとも1種が1,3,5-トリメチル-2,4,6-トリス(3,5-ジ-t-ブチル-4-ヒドロキシベンジル)ベンゼンである、1つ以上の立体障害フェノール基と多くても1つのエステル官能基を含んでいる安定剤の1種以上をスクリュウ押出機で溶融混合することの特徴とする、前記方法。

【請求項9】 該押出機に導入された該オレフィンポリマーの少なくとも1種が、915～960 kg/m³の標準密度及び、190℃において5 kgの荷重下で測定した0.1～200 dg/minのメルトフローインデックスを示すエチレンポリマーである、請求項8記載の方法。

【請求項10】 該押出機に導入された該官能基化剤の少なくとも1種がマレイン酸無水物である、請求項8又は9記載の方法。

【請求項11】 処理温度が120℃～290℃である、請求項8～10のいずれか1項に記載の方法。

【請求項12】 該安定化組成物が1種以上の非官能基化オレフィンポリマーで希釈される、請求項8～11のいずれか1項に記載の方法。

【請求項13】 オレフィンポリマーと、オレフィンポリマーと相溶性でないポリマー、充填剤及び金属基質とを相溶性にするための、請求項1～6のいずれか1項に記載の組成物又は請求項8～12のいずれか1項に記載の方法で得られた組成物の使用。

【請求項14】 相溶性でない該ポリマーがエポキシ樹脂である、請求項13記載の使用。

【請求項15】 多層接着における請求項13又は14記載の使用。

【請求項16】 スチールパイプの多層コーティングにおける請求項13～15のいずれか1項に記載の使用。